

RCJ フォーラム 2015

参加報告書

期 日：平成 27 年 10 月 10 日(土)～12 日(月)

場 所：富士山麓山の村(静岡県富士宮市、富士市)

テーマ：「Paddle Your Own Canoe ～自分ノ針路ヲ自分デ進メ～」



<参加・作成>

岩手連盟盛岡第5団

ローバースカウト隊



- ・庄司 健
- ・加藤 大貴
- ・中村 夏帆
- ・柳澤 彩紀

はじめに～フォーラムって何だろう？～	p. 2
1 概要（担当：中村隊員）	
1-1 RCJ フォーラムとは？	p. 3
1-2 日時・場所・日程	p. 4
1-3 参加者及びスタッフ	p. 5
1-4 5団ローバー隊参加者の参加動機	p. 6
2 プログラム（担当：加藤隊員）	
2-1 アイスブレイキング	p. 7
2-2 基調講演	p. 8
2-3 活動報告会	p. 9
2-4 フリーセッション	p. 11
2-5 分科会Ⅰ	p. 12
2-6 分科会Ⅱ	p. 16
2-7 ローバーナイト	p. 19
2-8 まとめ	p. 20
3 生活について（担当：庄司隊員）	
3-1 フォーラムの実施環境	p. 21
3-2 食事	p. 22
3-3 朝礼	p. 23
3-4 自由時間	p. 24
4 隊員ごとの役割・プログラム参加記録	p. 25
5 参加した所感・今後の抱負	p. 27
6 その他（担当：中村隊員）	
6-1 お金について(参加費、交通費)	p. 29
6-2 フォーラム前後の交流状況	p. 29
おわりに～今後フォーラムに参加するスカウトたちへ～（担当：柳澤隊員）	p. 30
フォトアルバム	p. 31
参考資料	p. 37

はじめに ～フォーラムって何だろう?～

フォーラムは英語で forum と書く。さて、その forum の意味は何であろうか。信頼できる英英辞典として名高い Oxford Advanced Learner's Dictionary を参照するとこう書いてある。

a place where people can exchange opinions and ideas on a particular issue

これを訳すと「特定の問題に対する意見や考えのやり取りができる集まり」となる。つまりフォーラムとは、ざっくり言ってしまうと「人が集まって、とある関心ごとについて話し合うイベント」ということになる。

特に、スカウト活動におけるフォーラムは、スカウト活動内外の課題について話し合い、その課題を解決するためにどういった行動を起こしていくのかを決めるものであることが多い。例として、2年に1度開催されるベンチャー年代対象の「全国スカウトフォーラム」や、本フォーラムの旧称である「ユースフォーラム」などが挙げられる。

また、該当する地域のスカウティングに関する意思決定の場となることもある。これはローバー年代対象のものであり、3年に1度開催される「APR Scout Youth Forum¹」や「World Scout Youth Forum²」がある。

今回はどちらかと言えば前者に近いフォーラムである。(大きな違いが1つあるが、これについては「RCJ フォーラムとは?」に説明がある。) 今後全国スカウトフォーラムや RCJ フォーラムに参加するスカウト達の参考になるように、プログラムをはじめとした情報、そして参加隊員の所感を充実させた。

指導者や保護者の方々には、この報告書を読んでいただくことで、今の日本のローバースカウトはどいういったことを考え、どいういったことを実行していこうとしているのかをつかんでいただけたら幸いである。

参加してきた4人は本報告書を足掛かりとして、本フォーラムで得たことを隊全体に浸透させ、実際の活動に生かし、隊、ひいては団のさらなる発展に寄与していく。

盛岡第5団ローバースカウト隊
加藤 大貴

¹ APRとは、Asia Pacific Regionの略で、アジア太平洋地域のこと。
平成27年度は開催年であり、10月28日～11月2日に韓国で開催される。

² 前回は昨年8月にスロベニアで開催された。
今回は平成29年8月にアゼルバイジャンで開催予定である。

1 概要 (担当：中村隊員)

1-1 RCJ フォーラムとは？

ローバー年代向けのフォーラムとして、平成 25 年度までは 2 年ごとに「ユースフォーラム」が開催されていた。平成 24 年度に「全国ローバースカウト会議 (略称 RCJ)」が発足してから今年で 3 年目となり、フォーラムの参加対象が明確になったこと、また RCJ 議長を通じ日本連盟コミッショナーに報告を行うことから、RCJ フォーラムという名称に変更することとなった。

ローバー年代のフォーラムは、ローバースカウトが中心となって実行委員を務め、その実行委員たちによってフォーラムの内容が決められる。これまでのフォーラムは、特定の問題について話し合い、それに対する提言文を出すものであった。しかし、本フォーラムの実行委員の方々は、ローバースカウトにおける「個人」という単位を重視してプログラムが構成してくれた。

本フォーラムは、ローバースカウトが議論に必要なスキルを高めるとともに、今後のスカウティングや生き方について考えていくことを趣旨としている。ローバースカウトを取り巻く課題やその解決策、そして今後の自分がどうあるべきかについて、1 人で考え込むのではなく、参加者同士で話し合うことで多様な考え方を取り入れられるようにした。

1-2 日時・場所・日程

○日時：平成 27 年 10 月 10 日(土)～12 日(日)、2 泊 3 日

○場所：静岡県立富士山麓山の村
(〒418-0011 静岡県富士宮市粟倉 2745)

○日程 (□で囲んだもの：プログラム)

<1 日目：10 月 10 日(土)>	<2 日目：10 月 11 日(日)>	<3 日目：10 月 12 日(月)>
13:30 参加者受付	06:45 朝礼	06:45 朝礼
14:00 開会式	07:00 朝食	07:00 朝食
14:20 オリエンテーション	08:00 片づけ・掃除	08:00 片づけ・掃除
14:35 □アイスブレーキング	09:00 □分科会Ⅰ	09:30 □まとめ
15:30 □基調講演	11:45 昼食	11:30 閉会式
□活動報告会	14:00 □分科会Ⅱ	12:00 解散
18:00 夕食(バーベキュー)	17:30 夕食	
20:30 □フリーセッション	19:30 □ローバーナイト	
21:30 振り返り	21:00 振り返り	
22:00 入浴	21:30 入浴	
23:00 消灯	23:00 消灯	

1-3 参加者及びスタッフ

○人数と構成

参加者：94名（ボーイスカウト84名+ガールスカウト10名）

事務局 1名

実行委員：8名

実行委員の役職は以下の通りである

- ・実行委員長：1名
- ・プログラム：2名
- ・記録：1名
- ・広報：2名
- ・生活：2名
- ・安全：1名
- ・アドバイザー：2名

※記録・広報・生活・安全については、「記録・広報」「広報・生活」「生活・安全」といったように兼任であった。

アドバイザーは日本連盟の方が担当してくださった。

○盛岡第5団ローバースカウト隊からの参加者

実行委員：柳澤 彩紀（広報・生活）

参加者：庄司 健

加藤 大貴

中村 夏帆



フォーラム期間中の生活に関して、参加者全員に説明する柳澤隊員

1-4 5 団ローバー隊参加者の参加動機

<庄司隊員>

本フォーラムの前身である平成 25 年度のユースフォーラムにおいて実行委員を担当し、その経験から多くの学びと気づきを得た。その前後から築いた全国の繋がりや、幅広い活動や多様な価値観に触れることができた。そのようなことから、参加者として更に交流の深化を図ることにより、これまで行ってきたローバリングの整理と、それを基にした今後のビジョンを見出だすことができると感じたため参加を決めた。

<加藤隊員>

私は、このフォーラムの名前に冠されている「RCJ」という全国のローバースカウトのネットワークにおいて岩手県代表と北海道・東北ブロック代表を務めており、この組織の運営委員の 1 人である。そのため参加は必須であった。

ただし、必須だから仕方なく申し込んだわけではなく、きちんと能動的にこのフォーラムに申し込むことができた。というのも、本フォーラムが、提言文を出す従来のフォーラムとは異なった形式のものだと知ってそれを体験してみたかったからである。

加えて、全国のローバースカウトが集まるこのフォーラムを通じて知り合いが増えることも期待して臨んだ。

<中村隊員>

ローバー隊になってから、自団の活動地区から離れてしまったため、活動をあまりしてこなかった。そのため、全国区の活動に参加することによって、他県連のスカウトの活動を知り、他県連のスカウトとの交流を持ち、自分自身のスカウト活動の発展を図ろうと思い、本フォーラムに参加した。

<柳澤隊員>

主な参加動機は、ローバーらしい活動がしたかったということである。大学進学と同時にローバー隊へ上進したが、ローバースカウトが実際にどんな活動をしているのか、ローバー年代には何が求められているかがよく分からなかった。そこで、全国規模の行事へと参画し、他のスカウトがどんな活動をしているのか、何を考えているのか、RCJとは何なのか知りたいと思った。

また、地方のスカウトの活動がどのようなものが知られていないと感じており、自分が全国のスカウトの前に顔を出すことでそれを知ってもらうきっかけを作れば良いと思った。

2 プログラム（担当：加藤隊員）

ここでは、フォーラム内のプログラムについて時系列順に説明していく。

2-1 アイスブレイキング³

○目的

参加者の緊張をほぐし、以後のプログラムの進行をスムーズにする。

○内容

「トーキング・スティック」を用いた自己紹介

○解説

今回は参加者が 10 個のグループにランダムで分かれて自己紹介をした。「なんだ、ただの自己紹介か」と思われる方もいるかもしれないが、今回はひと味違った。「トーキング・スティック」と名付けられた木の棒を持ちながら自己紹介をする、という条件が追加されたのである。木の棒を握り自分の前に掲げながら自己紹介をするのは日常ではまずありえない。日常ではありえないことを既に行っているからこそ、普通は少し恥ずかしい自己紹介でも堂々とできるという効果があったように思う。何度も新たなグループを作って同じことをしたので、終わるころには参加者の緊張は解けていた。



「トーキング・スティック」を持ち自己紹介をするスカウト

³ アイスブレイキング：会議等で、参加者の緊張を緩和するための手法

2-2 基調講演⁴

○目的

ローバリングの変遷について学び、未来について考える素地を養う。

○内容

「ローバリングの変遷について」というテーマの講演

○解説

今回は分科会があらかじめ分かれていたわけではなく、フリーセッションや分科会Ⅰを通じて最終的な分科会（分科会Ⅱ）が出来上がるという方式をとっていたので、基調講演のテーマは、全ての参加者に関係している「ローバリングの変遷について」であった。

全国的なローバー組織の発足・全国ローバームートの開催、これらの経緯について学んだ。現在、全国のローバー組織として RCJ があるが、これは近年発足したもので、昔からずっと続いてきているものではない。ムート⁵についても、近年は開催されていない。「思いをつなぐ」ことがいかに難しいかを、静かながら熱い口調で語っていただいた。



基調講演を担当された小山 RCJ アドバイザー

⁴ 基調講演：その後の分科会等の参考になる講演

⁵ ムート：ローバースカウト年代のジャンボリーのようなもの。世界スカウトムートは4年に1回開催されている。日本でもかつて全国ローバームートが開催された時期があったが、2005年を最後に開催されていない。

2-3 活動報告会

○目的

ローバリングの現状について学び、未来について考える素地を養う。

○内容

以下の8団体によるブース報告会

- ・盛岡第5団ローバースカウト隊
- ・尾張東地区ローバース
- ・明治大学ローバースカウト部⁶
- ・千葉県ローバース会議
- ・大阪連盟ユース会議
- ・全国ローバースカウト会議
- ・23WSJ Youth Event Team
- ・第12回世界スカウトユースフォーラム

○解説

上記の各団体がそれぞれのテーマで活動報告を行った。ブース形式をとったため、参加者は4つのブースを選んで回ることができた。加藤隊員と庄司隊員は「団とRS隊の活動・団との関わり方」というテーマで活動報告をした。隊と最も密接に関わる単位である団については参加者の多くが興味を持っていたようで、多くの参加者がわれわれのブースに来てくれた。⁷「指導者への連絡や保護者の方々・後輩スカウトへの宣伝など、当たり前のことをていねいにやる」という結論は、多くの共感を得られたように思う。巻末の参考資料に使用した資料を掲載している。



盛岡5団ローバー隊のブース。盛況だった

⁶ ローバースカウト部：大学にあるボーイスカウトサークルのこと。「〇〇大学ローバース」という呼称が多い。大学のサークルでありながら、日本連盟に属する1つの団でもある。

⁷ 計43名のスカウトが訪れてくれた。これは全国ローバースカウト会議と同人数でトップであり、参加者の隊運営への関心の高さがうかがえた。

中村隊員が選択したブースとその理由・所感

○盛岡第5 団ローバースカウト隊

理由：自団のローバー隊の活動にあまり参加できていないため、この場で自団のローバー隊の活動と団との関わり方を知っておきたいと思ったから。

所感：現在自団のローバー隊に何人在籍しているのか把握できていなかったり、自団のRS 隊から自分が知っている以上の先輩が活動の運営に携わっていたり海外派遣に参加していて、自分自身更にも上を目指して努力していこうと感じた。

○全国ローバースカウト会議

理由：RCJ とは構成員は誰でありどのような活動をしているのか、RCJ の存在意義は何であるのか全く知らずに本フォーラムに参加してしまったため、RCJ の活動理念、活動内容を少しでも理解する必要があると思ったから。

所感：RCJ の構成員は各県代表や運営委員を指すのではなく、全国の 18 歳から 25 歳のローバー年代のスカウトまたは指導者であり、県代表を通してそれぞれの意見をまとめ全国的なローバリングへ反映していることを知り、自分も RCJ 構成員の一人として全国的な活動を展開できるよう行動していきたいと感じた。

○23WSJ Youth Event Team

理由：自分自身も参加した 23WSJ であるが、ローバースカウトが活動しているというのを知らなかったため、どのような活動を行っていたのか気になったから。

所感：私が IST 食堂の掲示板で見っていた Swap Night や Rover Night は Youth Event Team がやっていたことであり、更にさまざまな SNS を活用し多くのイベントを開催していたので、もっと自分自身 SNS を活用すればよかったと思った。

○第 12 回世界スカウトユースフォーラム

理由：世界スカウトユースフォーラムというものが行われていることを知らなかったため、少しでもこのイベントについて知りたいと思ったから。

所感：世界スカウトユースフォーラムとは各国の代表のスカウトが集まりチームごとにセッション、決議を行うというものであるということを知り、スカウト活動の規模の大きさを改めて実感した。

2-4 フリーセッション

○目的

どんなことをしたいか話し合う。

○内容

5人1組のチームを作り、「あなたが今やりたいこと、これからやりたいことは何ですか？」というテーマでブレインストーミング⁸を行う。それについてグルーピングを行い、さらに他のグループとのグルーピングを行う。

○解説

悩んだり評価したりせずに、とにかくアイデアを多く出すことが求められた。それらを似たものごとにグループ化し（野外活動、海外派遣、地域貢献など）、隣のチームと合わせさらにグループ化、という作業を繰り返した。この作業によって、参加者のやりたいこと、言い換えると、現状ではできていないことがまとまり、分科会Ⅰの副テーマが浮かび上がってきた。



フリーセッションにてアイデアを書き出すスカウト

⁸ ブレインストーミング：会議等においてアイデアを出すための1つの技法。時間を設定して、ある事柄について悩まずに、とにかく多くの案を出す。

2-5 分科会 I

○目的

自らが目指す道を探るために、参加者全員から多様な意見（問題点・解決策等）を引き出す。

○内容

それぞれが課題・障壁と感じていること、悩んでいることを出し合い、話し合う。

○解説

フリーセッションで出たアイデアをもとに 16 個の分科会ができた。しかし、参加者がすぐにそれらの分科会に分かれてしまえば、選んだ分科会以外について議論ができず、限られた人の意見だけが反映されてしまうおそれがある。それを防止するために、本フォーラムではワールドカフェ⁹という手法が用いられた。これが従来のフォーラムとは一線を画す点である。

この手法を用いたことで、フォーラム参加者それぞれの意見が様々な分科会に反映され、参加者が多いというメリットを最大限生かせる結果となった。数人で同じテーマについてずっと考えるよりは、このように複数のテーマを扱った方が意見の多様性が上がり、1つに決めたテーマについて分科会IIで深化させるときに大きな助けになってくれた。



「地域貢献」で話し合う庄司隊員



「語学」でホストを務める加藤隊員

次ページからは、各隊員が選択した分科会と選択した理由、内容の説明および所感である。分科会IIで引き続き選択したテーマについては分科会IIの項で記述する。

⁹ ワールドカフェ：会議の手法の1つ。テーマごとにテーブルを設け、数人でカフェのように気軽に話し合う。所定の時間が経ったら1人を残して別のテーブルへ移動する。残った1人はそれまでの議論を伝達するホストを務める。複数のテーマを大人数で話し合うときに有効である。

<庄司隊員>

○国際協力

→分科会IIへ

○地域貢献

理由：ボーイスカウト運動が社会に対して行うアプローチとして様々な地域貢献の手法があるが、他の全国から集ってきたスカウトはどのような考えと想いを持って活動する(していこうとしている)のか知りたかったため。

内容：「何を目的とするのか」を考えさせられた。大規模でなくとも毎日独りでゴミ拾いをして地域貢献にはなるが、自身のやりがいや大きなムーブメントに発展することを期待して実施することもある。確かな目的意識に基づいて手段を選ぶことが重要であると感じた。

○全国ローバームート

理由：個々の想いや活動のバックグラウンドが異なるため、それらをぶつけ合い、仲間の輪・活動の幅を広げることが必要で、それを達成できるのがムートであるという想いがあるため。

内容：交流を通じて今後のローバリングを活性化させようと考えているスカウトが多いことが分かった。小山 RCJ アドバイザーの基調講演も踏まえた会話ができ、今後具体的にローバームートのような交流促進型の企画を実施するにあたっての課題点を見つけることができた。

○野外活動(陸上)

理由：野外が教場であるボーイスカウト運動において、他でどのような活動が展開され、それらの課題点について見直したかったため。

内容：夏季や冬季において様々なアクティビティを実施するうえで、装備などの自己負担が多く、金銭面のハードルが高くなりやすいと改めて感じた。

○海外旅行

理由：今年初めて海外の経験を積んだことで視野を広げることの必要性を感じ、また事故や治安など、リスクマネジメントの重要性が高い海外旅行を行う上での障壁を知りたかったため。

内容：海外ということで、安全面がクローズアップされていた。しかし、発展途上国というだけで先入観を持つことは適切でないかもしれないと感じた。

○資格・就職・起業

理由：資格取得を目指すことで学ぶことが多いと感じており、またローバー年代では就職する人が多いのもあって起業や就職に対しての他の人の考え方を知りたかったため。

内容：将来の選択に関して悩みを抱えている人も多く、やはり社会を経験していない状態で進路選択をすることはかなりの障壁であると感じた。

<加藤隊員>

※「語学」でホストを務めたため、まわった分科会は5つである。

○海外派遣

→分科会IIへ

○語学

理由：英語のさらなる習得が自分にとって常に課題であるため。

内容：どのような課題であっても最終的には「継続して努力すること」に集約された。しかしこれだけでは漠然としすぎているので、個人がそれぞれの課題を自分なりに把握し、それに対してどういった学習をしていけばよいのか、具体的なタスクを自ら考えることが必要である、ということになった。

○他県連との関わり

理由：他県連と合同で活動をやることがほぼ無い我々が今後どうしていくかの参考とするため。

内容：合同で活動する際、事故等が起きた際の責任の所在が課題となった。これについては私がいるときには解決策は出なかった。関わりをどう持っていくかについては、RCJのネットワークの基盤が確立しつつあるので、基本的にはRCJのネットワークを利用していくということになった。

○全国ローバームート

理由：RCJ運営委員会として、全国のローバースカウトがムートに対してどういったイメージを持っているか気になったため。

内容：「ムート」の定義が明らかでない、という課題はほぼ全員から挙げられた。「ムートをやりたい」という声についても、世界スカウトムートの日本版をやりたいのか、それともフォーラムとは違う野外活動メインのプログラムをしたいのかを明確にしなければならないと分かった。

○災害対策

理由：東日本大震災を内陸の人間ではありながら経験した身として、参考になる意見が出せるのではないかと思ったため。

内容：「ボランティアをしたい」という気持ちはありつつも、安全などを考慮すると実際には行けない、もしくは保護者や指導者に行かせてもらえないという意見が出た。できることからやろうという方向性で話は進んだが、スカウトにしかできないことを模索する必要がある。また、何か災害があった地域のスカウトが正しい情報をRCJのネットワークを利用して流し、それをもとにボランティア計画を立てるべき、という案が出た。

<中村隊員>

○災害ボランティア

→分科会11へ

○海外旅行

理由：単純に海外旅行に行ってみたいと思ったから。

内容：海外旅行は楽しい反面、安全面などで多く気を付けるべきことがあるので、事前の備えをしっかりとすべきだと思った。

○他県連との活動、交流

理由：様々な活動に参加させてもらったため、他県連に多く知り合いがいるのでその人たちと一緒に活動してみたいと思ったから。

内容：県連に企画書・計画書を提出する必要がある、さらに県連同士の連絡する

○趣味をスカウト活動につなげる

理由：趣味をスカウト活動につなげることができれば、よりスカウト活動が身近になり、更に楽しくなり、より多くの人たちがスカウトに興味を持ってくれるのではないかと考えたから。

内容：趣味とは何なのか改めて考えることができた。さらに、埼玉のふじみ野の団のローバー隊があまり活動できていないので、これからローバー隊としての活動を発展していくうえで趣味を活動につなげてみようと思った。

○資格、就職、企業

理由：現在資格を取得するために大学に通っているため、興味があったから。

内容：様々な資格に挑戦している人がいて自分も頑張ろうと感じた。

2-5 分科会II

○目的

引き出された意見をもとに、より深い討議を行い、考えを深める。

○内容

分科会I等で引き出された課題等について、それぞれの課題ごとにグループを作ってテーマを絞り、より深く討議を行う。

○解説

ここでは参加者がテーマを1つずつ選択してその分科会に行き、フリーセッションや分科会Iでの内容を踏まえながら討議した。それぞれのテーマについて、課題があると感じる場面・課題が発生する原因・課題を解決するにはどうしたらいいか・解決策は具体的にどんな活動で実践できるか、などについて話し合った。

盛岡5団からの参加者は3人とも異なる分科会へ行った。概要と所感は以下の通り。

<庄司隊員>

○選択テーマ：国際協力

○理由

規定集のローバーの目標にも記載されているように、国際協力はローバリングに必要な要素である。それを、国内からのアプローチを中心に考え、今後自身にできることを考えたいと思ったため。

○内容

「釣る人を育てるのか、釣り方を教えるのか」という言葉が今でも印象に残っている。よく耳にする言葉だが、国際協力について議論を深めている状態でこの言葉を聞いたときに、自身の中でとても納得した部分があったため、これからも意識したい。



「国際協力」で話し合う庄司隊員

<加藤隊員>

○選択テーマ：海外派遣

○理由：海外派遣の経験があり、今後も参加したいという強い意欲があるため

○内容

海外派遣に行ったことのあるスカウト/無いスカウトそれぞれの視点から、主として日本連盟主催の海外派遣について討議した。派遣内定の前後を問わず情報が不足している、もしくは情報を手に入れにくい、というのがメインの課題として挙げられた。これを解決するために以下の具体的な解決策が導き出された。

- ・報告書の質やアクセシビリティの向上
- ・日本連盟を介して過年度派遣参加者と連絡が取れるようにする
- ・RCJのネットワークで海外派遣を全国のローバースカウトへと告知する
- ・RCJの中に海外派遣を専門に扱うチームを作る（実際に検討中）

海外派遣に行ったことの無いスカウトは口をそろえて「海外派遣に行くようなスカウトは雲の上のような存在だ」という内容のことを言っていた。完璧なスカウトだけが海外派遣に行っているなどということとはあり得ない（僕が参加している、ということからそのことは明らかである！）。海外派遣を通じてスカウトとして、ひいてはいち人間として成長することが期待されているのだと思う。こうした心理的なハードルを解決するために、RCJ 運営委員として具体的な取り組みを起こしていく。



「海外派遣」を代表して発表する加藤隊員

<中村隊員>

○選択テーマ：災害ボランティア

○理由

3.11のとき私はベンチャー隊に上進したばかりで、自分たちでプロジェクトを企画・計画したわけではなく、先輩方のプロジェクトに参加させてもらったただけだった。そのため次身近な場所で何か災害が起こった際に、自分ができることは何なのか、何をすべきなのか、更に準備しておくべきことは何なのか考えたかったから。

○内容

身近な場所などで大きな災害が起きてしまったとき、私たちは一体何を考え何をすべきであるのか、現地ではどのような対応をすべきかを話し合った。ここで課題として挙げられたのが以下の3つである。

- ・スカウトとして何ができるのか。
- ・どのようにして情報を得るべきか。(被災地の安全情報・必要な物資について)
- ・ボランティアという定義があいまいである。



メモを取る中村隊員

2-7 ローバーナイト

○目的

参加者の親睦をさらに深める。

○内容

有志によるスタンツやゲーム

○解説

屋内で大きなロウソク台を囲み、個人・県・全体と様々な単位でのスタンツ・ゲームが実施された。さすが「自ら楽しむ」という姿勢を身に付けているローバースカウトだけあって、非常に盛り上がった。

終盤には全員がロウソクを持ち、厳かな雰囲気になった。バーベキューや各プログラムに親睦を深められる工夫があったが、やはりこのローバーナイトが最も親睦を深められるプログラムだったように思う。



ガールスカウトによるスタンツ

2-8 まとめ

○目的

各自が自らの進む道を考えるとともに、それに対する課題にどう取り組むかを共有し助け合うネットワークを作る。

○内容

各自が目指すべきところを考え、そのためにどうしていくか簡潔にまとめる。そのまとめたものを分科会IIのメンバーと発表し合い、意見交換を行う。

○解説

団・県・全国と様々な単位で活動するローバースカウトだが、本フォーラムのテーマが「Paddle Your Own Canoe¹⁰」であるように、一番大事な単位はやはり個人である。本フォーラムで話し合ったことや得たことを今後のローバリング、ひいては人生に生かしていくためにどうするか、一人ひとりが自分の頭で考えるためにこの「まとめ」の時間が設けられた。

スカウト活動に限定し、できることを書いているスカウトもいれば、今後の人生を考えてスケールの大きいことを書いているスカウトもいた。どれが良いということはなく、大事なのは実行しやすいようになるべく具体的に考えることである。

まとめを所定の用紙に書いた後は、分科会IIのメンバーとペアを作り互いにアドバイスした。この作業は複数回行われたため、多くのアドバイスをもらうことができた。



まとめを記入する庄司隊員



他のスカウトとアドバイスをし合う加藤隊員

¹⁰ 直訳すると「自分のカヌーは自分で漕げ」となる。
つまり、ローバースカウトは自ら考えて問題提起し、自ら行動を起こすべきであるということ。

3 生活について（担当：庄司隊員）

ここでは、本フォーラムのプログラム以外の生活面について説明していく。

3-1 フォーラムの実施環境

○施設の位置¹¹

富士山麓山の村は、富士山南麓一合目の国有林の中に位置している。富士山頂最高峰【剣ヶ峰（3,776m）】が北にそびえ、東に愛鷹山、西に南アルプス、南には駿河湾が一望できる場所にある。

○気候

富士宮市は10月中旬の最高気温が平均約25℃であり、最低気温も平均約10℃である。しかし、富士山麓1合目ということで、日差しが照っていたとしてもかなり肌寒く、朝晩は体感気温が5℃を下回っていた。加えて山中ということもあり、天候が急変することが多く、フォーラム前半は雨が降った。期間中には富士山頂に初冠雪¹²があるほど寒い中、フォーラムに臨んでいた。



12日朝の富士山。雪の白と空の青のコントラストが美しい

¹¹ 会場内に富士宮市と富士市の県境がある。

¹² 10月11日に初冠雪を記録した。翌朝は晴天だったのではっきりと視認できた。

3-2 食事

○バーベキュー

初日の夕飯は親睦を深める目的でバーベキューが実施された。テーブルはくじ引きで決められた。新聞紙使用可というゆるい条件ではあったが、どのグループも火おこしや調理に苦戦している様子は全く無かった。宮城県のローバースカウトたちから牛タンの差し入れが入るなど、豪華なバーベキューとなった。

○食事の方法

食事は、基本的には朝昼晩全てを宿泊棟内のホールにてとることになっている。そのため、離れた給食棟までリアカーを使用して運搬する必要があり、雨天時の運搬がとて大変であった。受け取るのは料理の入った食缶と食器で、それらを宿泊棟内のメンバーで配膳する。返却する際には水洗いをして再びリアカーで運搬する。給食棟と宿泊棟の間は傾斜のある砂利道があり、複数人でないとかなり大変である。

○食事内容について

配膳内容はかなり小学校時代の給食を彷彿とさせるものであった。メニューはバラエティに富んでおり飽きることはなかったが、味は薄いものと濃いものがはっきり分かれており、あまり食事にそのものにテンションが上がらなかったのも事実だ。

そのような中でも、ボーイスカウト盛岡第5団の「いただきます」「ごちそうさま」の作法を全国に知らしめる（あれは全国共通ではありませんよ！）など、できるだけ楽しんで食事できるように努めることができた。



楽しそうな中村隊員たち



5 団式いただきますを紹介する庄司隊員

3-3 朝礼

2日目の朝礼は、あいにくの雨であったために各宿泊棟にて行われた。そのため、当初予定されていたものよりも簡素なものになった。

最終日は見事な秋晴れで、気持ちよく朝礼に臨むことができた。かなり冷え込んでいたため、スカウトのほとんどは上着を脱ぐのを億劫そうにしていた。朝礼が実施された広場では約 100 名による U 字形が作られ、国旗儀礼やソングもとても勇壮さを感じさせた。朝礼時の実行委員挨拶は当団ローバー隊から参加している柳澤隊員が担当した。最終日まで気を抜かずしっかりと参加しようと気を改めるような良い挨拶であった。朝礼終了後には、参加者主導となり鬼ごっこのゲームが行われた。単純ではあったが、それだけに楽しみやすく体を動かす要素もあったため、よい朝のスタートになった。朝礼の前後には、会場の背後に雪を冠してそびえ立った富士山に感動する人も多く、自然の雄大さと環境の良さに感謝した。



国旗儀礼は全員がきびきびしていて
気持ちが良かった



鬼ごっこにも全力で取り組む

3-4 自由時間

今回のフォーラムでは従来とは異なり、採択文や提言文などのアウトプットを出さないということで、食事の前後や企画の前後にかなり時間のゆとりがあったと感じた。

そのほかにも、宿泊棟内では、備品であるピアノや持参したギターなどを用いて、即興のソング大会を開くスカウトや、各地域の活動について意見交流や情報交換をするスカウトがいた。

また、企画中の休憩時間や移動時間には道中や会場にて交流・意見交換を行うスカウトが多かった。普段はあまり直接集う機会がない者同士が語り、親睦を深める姿はとてもよかった。

さらに、2日目の夜にはRCJの各ブロック等における話し合いの場が持たれる¹³など、RCJがネットワークとして機能している様子を見ることのできた。



他のスカウトたちと談笑する中村隊員



お菓子や飲み物を準備している柳澤隊員



北海道・東北ブロックの課題を共有した



RCJ 運営委員会の臨時会議
深夜 2 時まで頑張った

¹³ フォーラム 2 日目の夜には、北海道・東北ブロック会議や関東ブロック会議、運営委員会の臨時会議が行われた。

4 隊員ごとの役割・プログラム参加記録

<庄司隊員>

フォーラムの場では加藤隊員と共に「団と隊の関わり」という観点から活動紹介を実施した。内容としては、現在の盛岡第5団ローバー隊の活動実施状況に始まり加盟スカウト数や具体的な活動・取り組みについて、そして現在の課題や特に広報活動分野の説明補足を実施した。主に加藤隊員が説明を行い、庄司が質疑応答を担当した。何枚かの写真をスライドショーにて参照しつつ説明したが、それらではなく当隊の組織や盛岡5団の状況、そしてFacebook ページについての疑問や質問が多く寄せられ、活発な意見交流を行うことができた。総訪問者数が43名と、他のブースと比較してもかなり関心の高いブースであったことを実感できた。

<加藤隊員>

それぞれブースを設けて実施された活動報告会では、盛岡第5団ローバー隊は「団でのRS隊の活動・団との関わり方」というテーマで報告を行った。その中で私はメインのプレゼンターを担当した。質問を担当した庄司スカウトと協力しながらうまく紹介ができたと思っている。

分科会IIでは、今年度の海外派遣を計画中ということで身近になっている「海外派遣」のブースを選択し、その中で司会を担当し全体をファシリテートした。これについても周りのローバースカウトの意見やサポートに助けられながら何とか司会としての役割を果たせた。ただ、ローバー1・2年目のスカウトが意見を言えるようなサポートがあまりできなかったことが反省点として挙げられる。ローバーも3年目に入る今年、後輩のサポートもしっかりできるローバースカウトになりたい。

また、本報告書の編集統括も担当した。今後はテキストエディタの技術を向上させ、より読む人にとって分かりやすいレイアウト・デザインの報告書を作っていけたらと思う。

<中村隊員>

今回は、実行委員でもなく何かブースを担当したわけでもないので、大きな役割はなかった。しかし、参加者としてフリーセッション・分科会I・分科会IIでは自分の意見や思ったこと、感じたことなどを発信し積極的に話し合いに参加することを心掛けた。分科会IIでは災害ボランティアについて話し合い、3.11のときのことを伝えたり出た意見を書き取りまとめたりと話し合いのサポートができたのではないかなと思う。

今後、フォーラムに参加する機会があればよりよい話し合いとは何なのか考え、スムーズな話し合いができるようなサポートができるようにしたい。

<柳澤隊員>

今フォーラムの実行委員会として6月から準備を行っていた。実行委員としては記録・広報と生活を担当した。記録・広報担当としては公式 Facebook ページの更新や Skype 会議の議事録の作成、写真撮影、実施時時刻等の記録を行い、生活担当としてはオリエンテーションの実施、清掃点検等を行った。実行委員会として活動するのは初めてで、記念品の策定や受付の計画、RCJ フォーラム 2015 公式 Facebook ページの更新等、普段はなかなかやる機会のないことも経験できた。

参加スカウトが一堂に会する期間は終わってしまったが、今後もスカウトたちの活動を追跡調査し、その結果を報告書に載せる等の計画があるため、実行委員会として活動はこの先も続けることとなる。



5 団ローバー隊全員集合の 1 枚。

柳澤隊員は実行委員としての役割を十分に果たしていました！

5 参加した所感・今後の抱負

<庄司隊員>

RCJの基盤づくりが成果を得てきていると実感したフォーラムだった。平成23年度ユースフォーラムでの提言を受け、2012年度全国大会の場にて発足したRCJ(全国ローバースカウト会議)が、各県連盟代表やブロック代表を中心とした尽力によりネットワーク・連絡体系などの構築が進められている。その情報や経験の伝達が進み、今回ガールスカウトからの参加も含めた約90名もの参加があった。

また、多くのローバー1、2年目のスカウトが積極的に議論へ参加しているという頼もしい光景もあった。

フォーラムの趣旨である「自分の針路」を思い描き、行動していくきっかけにすることを達成するために、異なる価値観の意見も自己に反映させ、動き続けていきたい。

<加藤隊員>

新たな形式をとったフォーラムということで、参加前には期待と不安が入り混じっていたが、フォーラムが終わるころには充実感でいっぱいだった。ワールドカフェなどの「全員参加型」の会議の手法は、100人近くと参加者が多かった今フォーラムで最大限に発揮されたものであると思う。

分科会Ⅰではローバースカウトに関する様々な事項について参加者の意見や思いを知ることができ、分科会Ⅱではその中で一番興味を持った海外派遣について、現状の課題について具体的な解決策を見出すことができた。今後、RCJのネットワークがより強固なものになれば、日本連盟主催の海外派遣はより充実したものになるはずだという確信を持っている。

バーベキューやローバーナイト、各種ゲームでも、全力で楽しむことができた。最もスカウト活動を楽しむのは、プログラムやゲームそのものの面白さではなく、本人たちの楽しもうとする姿勢であることを再確認した。

今後は、5団ローバー隊の活動の充実と、RCJ北海道・東北ブロックの基盤づくり、富士特別派遣の3つに全力をささげたい。特に5団ローバーについては、実際の活動を大事にしながら、団に密着した面白い隊づくりをしていきたい。

<中村隊員>

今回ローバー隊に上進して初めて全国規模のフォーラムに参加した。今回のフォーラムは、今まで参加してきたフォーラムとは違い採択文がなく、初日の夜に行われたフリーセッションでできたものをいくつかのテーマに分け、そのテーマを分科会Ⅰでいくつかのテーマについて話し合いを行い、更に分科会Ⅱで一つのテーマに絞って話し合いを行うという形でとても新鮮だった。フリーセッション・分科会Ⅰ・分科会Ⅱでは話し合いを行うメンバーがそれぞれ違い、多くの参加スカウトと交流をすることができた。

私は、フォーラムは話し合いの場と勝手に思い込んでいたので話し合い以外の場ではただ生活を送ればいだけと考えていた。しかし、毎食食事を宿泊棟から離れた場所にとりに行かなければならないなど面倒くさいと思うことが多くあったため、実行委員から指示をされなくても分担を決め、それに従って動いていたのを見て、当たり前前かが当たり前にスムーズにできるのはやはり全国区の活動に参加しているスカウトならではないかと感じた。

今まで、ローバー隊に上進してから大学とバイトが忙しいからとか、所属の団の地区から離れてしまったからと言い訳をして、活動を疎かにしてしまっていた。しかし、今回のフォーラムで知り合った県連の活動に参加させてもらうなどをして活動を展開していきたい。更に、今回フォーラムに参加しなかったふじみ野の団のローバースカウトに良い影響を与えていけるよう努力していきたい。

<柳澤隊員>

今回、このフォーラムに実行委員会として参加して本当に良かったと思っている。ローバースカウトになってから全国規模の大会に参加するのは初めてのことで、実行委員会に応募したのは浅はかだったと最初は思いながらも、経験も知識も豊富な他の実行委員のスカウトから刺激を受け、支えてもらいながらここまでやってこられた。実行委員会の中では最年少かつ女性一人ということで、頼りないながらも他の実行委員やガールスカウトを含む参加者に頑張っている姿を見せられたのではないかと知っているし、それが少しでも若い世代の活動の活性化につながればよいと思う。

実際にフォーラムで参加者と活動してみた中で、参加者が討議を進める中で葛藤している姿を初めて外から見つめられた。経験の差もある中での討議は気遣いなしには上手くいかないことだと思うが、事前に“人の意見を否定しない”ということをよく注意したこと、参加者同士の支え合いがあったことが成功の鍵となったと思う。従来とは異なる手法でのフォーラムであり、慣れない点多かったが、満足度の高いフォーラムにすることができて良かった。私も今度は参加者として体験したいと思った。

これまでのローバー活動はほとんどが隊活動への奉仕であり、リーダーの方々やスカウトとあまり密に連絡を取り合うことは出来ていなかったと思う。今後は、今回のフォーラムで作ることができたネットワークを活用しつつ、プロジェクトや派遣など、奉仕以外の活動にも目を向けていきたいと思っている。自分たちの世代でも活動がしっかり進められていけるように経験を積んで力をつけ、仲良く楽しく自分たちらしい活動を行っていききたい。また、弘前で活動にもできるだけ参加し、スカウトたちと関わっていく中で、自分にも相手にもいい影響を与えられるようにしていきたいと思う。

6 その他（担当：中村隊員）

その他フォーラムに関する事柄

6-1 お金について（参加費、交通費）

参加費：1万円

交通費：1万円（実行委員は支給）

交通手段について、参加者であった庄司・加藤・中村隊員は、電車で行くより安価であるという理由からレンタカーで移動した。岩手から庄司隊員が運転してきた車に、東京から加藤隊員を、埼玉から中村隊員が合流して移動したのだが、庄司隊員 1 人に運転の負担をかけてしまったことは反省すべき点である。今後まとまって移動する際は、特定の隊員にのみ負担がかかる、という状況は避けてほしい。

6-2 フォーラム前後の交流状況

○フォーラム前

実行委員によって、サイボウズ live と呼ばれるウェブ上のグループウェアにて「RCJ フォーラム 2015 参加者」というグループが作成され、各自が自己紹介をした。また、諸連絡についてもこのグループウェアが用いられた

○フォーラム後

サイボウズ live を通じて追跡調査が実施される予定である。

また、Facebook や Line といった SNS にも、非公式ではあるが参加者のグループが作成され、交流が続いている。

おわりに ～今後フォーラムに参加するスカウトたちへ～

この報告書を通じて、皆様にはRCJ フォーラム 2015 という活動について、また、参加した私たちの思いを知っていただけたかと思う。これを読んで、一人でも多くのスカウトがフォーラムに参加してみたいと思ってくれることを願っている。だが、フォーラムに行く勇気が出ない、自分の意見を言うのが怖い、という気持ちから参加をしないスカウトも少なくないだろう。しかし、それは誰もが一度は考えてしまうことなのではないだろうか。今回のフォーラムに参加したスカウトは、ローバースカウトとして多くの経験を積んできたスカウトだけでなく、これをきっかけにこれから頑張っていきたいという思いから参加したスカウトも多かった。フォーラムとはどうあるべきか、ローバリングはどうあるべきか、考え方はもちろん人それぞれ違うものである。置かれている状況が違うスカウトが集まってきたが、今回のフォーラムでは、参加者全員が相手の意見を否定することなく意見を交流させることができた。それは、どんな意見でも他人の意見は否定しないという意識を持って話し合いを進められた結果である。

もちろんこれはフォーラムに限ったことではなく、普段の活動や生活の中でもやるべきことだと思う。誰の意見でも間違った意見というものはなく、怖がらずに自分の意見をはっきりと発言することは自分のためにも、相手のためにも大切な行動である。また、意見が言えずに困っている人がいたらそれを助けてあげる、相手の話を途中で遮らずに聞いてあげるのが聞き手の役割である。今後フォーラムに参加するスカウトたちにはこのことを忘れずに、沢山の意見を話し、聞き、自分の考えを深めていってもらいたい。

ローバースカウトは、与えられた何かをこなすのではなく、自らがやりたいことを探求していくべきである。年代的にも、進学・就職で頻繁な活動が難しくなり、両立に悩むこともあるとは思うが、活動の頻度は問題ではなく、たくさんの人とふれあう中で色々な世界を知ることができたら、それは自分自身の大切な財産となる。ローバースカウトの活動には、ベンチャー年代までの活動よりももっと自由度が高く、自分の興味に合った活動ができるという魅力があり、それはボーイスカウトでなければなかなか経験できないものだと思っている。私たちの後輩スカウトたちには一人でも多くローバースカウトまで活動を続けてもらい、色々なことを経験して欲しい。また、自分の周りで頑張ろうとしている人がいたら、ぜひとも目を向けて応援していってもらいたい。

最後に、この報告書を最後まで読んでいただき、本当にありがとうございました。参加スカウト一同、この報告書が今後参加するスカウトたちの参考として活用されること、皆様のローバースカウトへの興味・関心につながることを願っております。

盛岡第5団ローバースカウト隊
柳澤 彩紀

フォトアルバム



膳師日本連盟コミッショナーによる開会式の挨拶



メイン会場の様子



バーベキューにて、みんなで乾杯！



楽しいバーベキュー



仙台のローバーから牛タンの差し入れが！



真面目に説明を聞きます



2日目の朝礼は雨のため宿泊棟で



朝のゲーム① 人間知恵の輪



朝のゲーム② 動物ジャンケン



みんな笑顔



ワールドカフェ形式のおかげで大人数でも効果的な議論ができました



分科会IIではより深い議論をしました



ローバーナイト① 筋トレアブラハム



ローバーナイト② 自慢のラップを披露！？



22WSJの同じ派遣隊の6人が集結！



ローバーナイト③ 人間空気椅子は大成功！



実行委員長から火が渡されます



厳かな雰囲気



このつながりはやはり目立ちますね！



宿泊棟は良い雰囲気でした



約 100 人で U 字形の集合をするとここまで大きくなります。壮観。



真面目バージョン↑ 集合写真 ↓自由バージョン



参考資料

盛岡第5団ローバースカウト隊が活動報告会(p. 9を参照)をするにあたって作成した資料や、分科会II(p. 16を参照)で作成されたまとめシートを参考資料として付す。

活動報告会資料・・ p. 38

分科会IIのまとめ・・ p. 40

※このまとめシートは、あくまで個人のまとめを補助するものであり、このフォーラムのメインの成果物ではない。そのため簡素なものも多い。

- 資格・就職・起業
- 趣味をスカウト活動につなげる
- 指導者とローバー活動の両立
- 自団のローバー隊活動
- 地区・県のローバー活動
- 地域貢献
- 他県との交流
- 全国ローバームート
- スカウト人口を増やす
- 海外派遣
- 国際協力
- 災害ボランティア

団でのRS 隊の活動・団との関わり方

担当：庄司健、加藤大貴（盛岡第5 団 RS 隊）

①概要

盛岡第5 団 RS 隊は、他部門奉仕・大会奉仕・海外派遣などの活動をしている。これらの活動をするにあたっては、指導者と連絡を密にとることで信頼を得ている。また、保護者や後輩スカウトへの広報を積極的にすることで団の中でのRS 隊の存在をアピールし、VS→RS の上進スカウトのみならず、団全体の継続者を増やしたいと考えている。

②盛岡第5 団 RS 隊について

◇加盟スカウト数（平成27 年9 月14 日現在）

21 名←ベンチャー隊の時にやめるも、ローバーになってから復帰した例あり(1 名)

◇課題

進学・就職の関係上、岩手県内に住んでいるのは7 名のみ。東北に範囲を広げても12 名と、まとまった人数のスカウトが集まり活動するのは難しい。←団キャンプの成功

◇具体的な活動（下線を引いたものは盛岡第5 団と直接関係があるもの）

<隊として>

団キャンプ運営手伝い、UK スカウト歓迎会司会進行、隊キャンプ、シーカヤック

<個人として>

・他部門奉仕(本年度)

BVS 隊奉仕、CS 隊奉仕、BS 隊奉仕、弘前第1 団(青森)奉仕、ふじみ野第1 団(埼玉)BVS 隊奉仕

・大会奉仕(本年度)

23WSJ 参加(IST)、23WSJ ハンドブック翻訳

・各種運営(近年のもの)

RCJ 運営委員(2 名)、RCJ フォーラム運営委員(2 名)、全国スカウトフォーラム実行委員(1 名)、
全国スカウトフォーラムアドバイザー(2 名)

・海外派遣(近年のもの)

カンデルスティッヒ国際スカウトセンター奉仕(2 名)、富士特別海外派遣(4 名)

③団との関わり

◇指導者との連携

◇保護者・後輩スカウトへの広報

・団広報紙「グリーンチーフ」

・Facebook ページ

(<https://www.facebook.com/mori5rover>)



BS・BVS 隊奉仕については、単なる手伝いだけではなく活動の企画・計画もいくつか任せてもらっている。県外のRSも、帰省時は各隊隊長にきちんと連絡し奉仕できる環境を用意してもらっている。また、在県のRS代表が、RS隊長・団委員長に対して定期的に活動の報告をしている。

他部門奉仕や団行事の際は、保護者の方々と積極的にコミュニケーションをとり、活動についてなど質問があった場合は丁寧に答えるようにしている。後輩スカウトに対しては、いい意味で親しみやすい存在として接し、「ローバーって何だか楽しそう」というイメージを持ってもらうようにしている。

Facebook ページ「ボーイスカウト盛岡第5団ローバースカウト隊」にて、隊員が関わったあらゆるスカウト活動について写真を交えて報告することで団の内外に向けて定期的にRS隊の宣伝をしている。また、月1回発行している団広報紙「グリーンチーフ」にRS隊の紹介を掲載してもらう予定である。

こうした宣伝によって、RSに上進するスカウトが増えることをねらっている。

○資格・就職・起業

課題

資格・就職・起業を満足にするために、どのようにすれば意欲をコントロールできるのだろうか？

達成目標

意欲をコントロールできるようにして、資格・就職・起業を満足させる。

課題の原因

- ・ 外部的要素：人間関係、経済力、時間、スキル
- ・ 内部的要素：意欲の強さ、目標・目的の不明瞭

解決策

目標・目的を明確にする

→意識付け…文字に書いて毎日見る、声に出す、周りの人に宣言する

○趣味をスカウト活動につなげる

課題

- ・ 手間がかかる
- ・ 想像力で新しいこと、ものを生み出す

達成目標

同じ趣味で集まる←SNSの活用

←フォーラムでの交流

→趣味の幅を広げる

→趣味を超えての交流 →フェスの開催

・ 音楽+ダンス

・ 車+旅行

課題の原因

- ・ 計画の手間
- ・ 最初に会うまでのきっかけがない

解決策

とりあえず行動してみる。

○指導者とローバー活動の両立

課題

指導者とローバー活動の両立が十分にできていない

達成目標

2つの両立、特に指導者活動も楽しむ

課題の原因

- ・理解者がいない
- ・人材不足

解決策

指導者活動に達成感を見出す→ローバー活動とそこまで分けて考えない

○自団のローバー隊活動

課題

団ローバーの活動がない

達成目標

団ローバーズの活動を活性化させる

課題の原因

- ・人が来ない
- ・何をしたら良いかわからない（具体例を知らない）
- ・誰も企画を立てない

解決策

- ・自分1人だけでもやるつもりで計画を立てる（気軽に）
→団の仲間を巻き込む
- ・他団の活動を知る
- ・活動してみる
→やりたいことに理解をしてもらえない場合は資料で戦う！
→団内で広報し、下の代にもローバー活動をアピール
→上がってきたときにローバー活動をしてもらう

まとめ：とりあえず動く

○地区・県のローバー活動

課題

地区/県ローバースを発展させるにはどうしたらよいか

達成目標

<地区>

- ・会議が出来る
- ・技術を持ったアドバイザーの協力が得られる
- ・すばやく動ける体制をつくる

<県>

- ・全地区から参加する（地区に情報をまわす）
- ・軌道修正、役割を見直し、一人一人の主体性、当初の目的を理解する

課題の原因

<地区>

- ・VSでやめてしまう→他県への進学（従登録知らない）、活動に魅力がない、会う機会が少ない
- ・RS年代の関りを知っているリーダーがいない→理解がない、RS=指導者になってしまう
- ・日頃からお互いに連絡をとらない→成功体験を分かち合う、プロジェクトリーダーがいない、活動を知らない、RSって何をすればいいの？

<県>

- ・地区RSがない→作った後の継続、団・隊で情報が止まってしまう→RSに来ない
- ・県連がローバースの主旨を勘違いしている
- ・運営委員以外の方が構成員としての自覚がない

解決策

<地区>

- ・地区VS年代に地区ローバースの広報→出てこない人への呼びかけ、地元に残っている人の把握
- ・RSのイベントの情報に強い人、専門分野に強い人を国内の人、地区コミに紹介してもらう
- ・一度イベントに参加して、他の活動にも誘う
→気軽なコミュニティ、大会から帰ったらホットな内容を話す、ほう・れん・そうをすぐに

<県>

- ・県ローバースが地区ローバースを支援、代表が居なくても地区の人が出て情報を共有してもらう
- ・活動体と会議体の両立。構成員であると周知させる

○地域貢献

課題

何をすることがその地域の貢献につながるのか分からない

達成目標

何をすればその地域に貢献できるか理解し、それを実行・継続できるようになること

課題の原因

- ・ 普段スカウトの集団内だけで活動しているため、外とのパイプが無い
- ・ 「地域貢献」が何なのかははっきりさせることができていない
- ・ スカウト活動が地域に貢献できないと思っているため、地域貢献の意義を知る気が無い

解決策

- 外とのパイプをつくる
 - ・ NPO 等、他団体の活動に参加する
 - ・ 行政や保健所等にかがいを、スカウト活動について紹介し、できることはないか聞く
- 「地域貢献」とは何かを定義づける
 - ・ 自分たちの考えだけで実行するのではなく、地域の人と一緒に作りあげていく
- スカウトが地域貢献に効果があると思うようになる
 - ・ スカウト活動を生かした地域貢献活動をする
 - ・ ゲームの要素を取り入れるなど、楽しいプログラムにする

○他県との交流

課題

他県連との交流がしにくい

達成目標

- ・横のつながりができる→県の単位を越えた活動ができる
- ・申請が楽になる→ネット申請

課題の原因

- ・横のつながりの希薄さ
- ・県連単位であること前提の活動システム（書類申請）←複数の県連のメンバーでプロジェクトを立てにくい

解決策

- ・横のつながり
 - 全国的なイベントに参加
 - 多くの人数のグループを作る 過去のフォーラム、RCJ
- ・ローバー同士が気軽に情報交換できるシステムの構築
- ・他県との活動を活発にするには
 - 県外活動の申請を日連で一元化
 - 申請のIT化
 - 県・地区ローバースで連携し、主体的に報告会を行う

○全国ローバームート

課題

- ①ムートの定義・目的が分からない
- ②大会期間
- ③資金源
- ④外部団体からの協力
- ⑤実施する能力
- ⑥運営委員が最後までやりぬくことが難しい
- ⑦バックアップが無い

達成目標

- ①②ムートの知名度をジャンボリー並みに
- ③④企業の理解を得て黒字にする
- ⑤⑥KO-MOOT を開催してノウハウを積む
- ⑦アドバイザーの十分な確保

→ムートを開催する

課題の原因

- ①ムートの知名度が低い
- ②仕事・学業と被る
- ③④資金源が無い
- ⑤⑥今のローバーがムートを開催したことが無い
- ⑦成人指導者もムートを理解していない

解決策

- ①②日連 HP・RCJHP にガイドラインや経験談を載せる
- ③④ファンドレイジングをする。参加費の徴収。企業や個人店の協賛
- ⑤⑥地区・県・ブロック単位での KO-MOOT の開催
- ⑦地区・県のローバース会議のアドバイザー等をお願いする。後々は公募制にしたい

○スカウト人口を増やす

課題

どうやったらスカウトが増加するか

達成目標

スカウトに対する理解を広め、今よりスカウト人口を増やす

課題の原因

認知度の低さ、個人の思い、事情、社会問題

解決策

PR 活動を行う（ネット・ポスター）

↳Facebook・YouTube（ジャンルごとに活動の様子の動画をまとめる）

○海外派遣

課題

1. 募集段階での派遣情報
 - 1-1. 派遣情報そのもの
 - 1-2. 派遣情報の伝達
 - 1-2-1. スカウト自身に関すること
 - 1-2-2. 指導者などに関すること
2. 派遣内定後の支援
3. 海外派遣に関する周囲の理解
 - 3-1. 派遣前
 - 3-2. 派遣後

達成目標

多くのローバースカウトが海外派遣にチャレンジできて、適切な支援を受けて派遣に参加でき、成長できること。

課題の原因

1. 海外派遣に関する情報の不足、情報の伝達がうまくいっていない、参加後の報告・引き継ぎがきちんとなされていない
2. 参加した人の生の声が聞けない、資料の不足
3. 情報不足、報告がきちんとなされていないため理解が得られていない

解決するには

1. 募集段階での派遣情報
 - 1-1. 派遣情報そのもの
 - ・報告書にアクセスしやすくしてほしい(過年度分も含め)
 - ・説明会の実施←交通費をどうするか
 - ・全国大会のエキスポやフォーラムの場でブースを設ける
 - ・派遣の説明や簡単な報告を動画にして公開する
 - 1-2. 派遣情報の伝達
 - 1-2-1. スカウト自身
 - ・RCJ の Web ページに海外派遣に関するページをつくる
 - ・RCJ の情報伝達ルートの確立
 - ・「日連→県連→スカウト」といった正規のルートだけではなく、知り合い関係の中でも情報を伝え合う
 - 1-2-2. スカウト以外
 - ・日本連盟からの情報をきちんとスカウトまでおろす
 - ・研修所など、横のつながりができる場で情報を伝え合う
2. 派遣内定後の支援
 - ・日本連盟に、過去の派遣参加者と連絡が取れるようにしてもらう
 - 事前訓練に来てもらう←交通費や時間
 - Skype やサイボウズを用いる
 - 質問用紙を参加者に記入してもらい、過年度参加者に答えてもらう
 - ・次回以降の参加者を意識して、参加者に必要な情報も盛り込んだ報告書を作成する
3. 海外派遣に関する周囲の理解 (団・地区・県連…A/会社・学校…B)
 - 3-1. 派遣前
 - A 団の活動にきちんと参加し、理解を得られる素地を作る
 - A 過去の派遣を紹介して熱意を伝える
 - B 自分のこれまでの活動や過去の派遣を紹介して熱意を伝える
 - 3-2. 派遣後
 - A 指導者・保護者・スカウトに向けた報告会を実施する
 - 県連や団の広報誌に載せてもらうというのもあり
 - B 行かせていただいた以上、適切な報告をする

○国際協力

課題

まずグループ討議の方向性として、国際協力を「発展途上国」「先進国」「国内」の3つの観点から考えた。その際、国際協力に取り組みやすい環境づくりという枠組みの中で、特にお金と安全が課題であるという帰結となった。

達成目標

国内活動の活性化を図ることである。

課題の原因

学校や国際協力に対して興味のあるものに対する教育が十分でない。それに加えて情報の個人差が大きく、うまく情報を行きわたらせることができていない。これらの要素が課題を発生させていると考えた。

解決策

- ・活動のきっかけづくりを増やす
- ・活動に参加した後にも持続可能な活動につなげていく

○災害ボランティア

課題

- ・スカウトとして何ができるか
- ・どのようにして情報を得るべきか（被災地の安全情報・必要な物資について）
- ・ボランティアの定義があいまい

達成目標

- ・スカウトとして何ができるのか理解する
- ・被災地の正確な情報について知る
- ・ボランティアの定義について理解する

課題の原因

- ・自分たちができることで何を必要としているのかわからない
- ・情報が多くて何が正しいのか判断が難しい

解決策

- ・スカウトは団結力があるため効率的に動けるよう行動する
- ・災害対策本部等の現地に連絡を取り、SNS や RCJ を通してスカウト内で情報を共有する
- ・専門職に就いている人や、専門的な知識のある人に話を聞く場を設ける（講習会等）

編集後記

1つの隊から4人の参加があったので、個人ではなく隊として報告書を作成しようということとなった。まず必要な目次の作成は最も報告書作成に慣れている庄司隊員にお願いした。そこから、参加者であった庄司隊員と中村隊員と私で執筆箇所を分担した。柳澤隊員は実行委員として全体の報告書を作成する作業があったので、一人ひとりの原稿が欲しいところだけ執筆してもらった。

記憶が新しく思いも熟いうちを書いてしまおうと締め切りを早めに設定したが、全員大学生であるために授業や学園祭の準備、アルバイトとの兼ね合いが難しく、執筆が遅れてしまった。執筆が遅れることそのものはそこまで悪いことではないが、執筆が遅れていることについて編集担当に相談もせずに放置するのはいかがなものかと思う。やはり、スカウトたるもの「報告・連絡・相談」のいわゆる「ほうれんそう」はしっかりと意識していきたいものである。

また、執筆についても、報告書作成の目的に合わない文章を提出してくる隊員がいた。本報告書は確かに単なる事実の報告も兼ねて作成しているが、今後後輩たちがフォーラムに参加するときの助けとなることを最大の目的としている。そのため、フォーラムの内容やその楽しさ、環境等が伝わりやすいような構成を心掛けた。そんな中で単なる事実だけを述べるのは、無機質で、読んでいて面白くない。

ボーイスカウトの中で最も年長に当たるローバースカウトですら、報告書作成にあたってこうした問題点が出てくる。ベンチャー以降非常に重要なサイクルとなる「Plan Do See」（計画・実行・反省）をきちんと意識して活動していかなければならないと、この報告書の編集を通じて再確認させられた。

今後は最年長部門であることに甘んじることなく、最年長部門であるからこそ、報告書ひとつをとっても最高のものを制作できるようにしていきたい。

編集主幹

加藤 大貴

RCJ フォーラム 2015 参加報告書 (発行:平成 27 年 11 月)



岩手連盟盛岡第 5 団ローバースカウト隊

編集:加藤 大貴

執筆:庄司 健

加藤 大貴

中村 夏帆

柳澤 彩紀